

令和4年度第1回小櫃・上総地区公民館運営審議会会議録

- 1 会議名称 令和4年度第1回小櫃・上総地区公民館運営審議会
- 2 開催日時 令和4年5月17日（火）
15時00分から17時10分
- 3 開催場所 上総地域交流センター
- 4 出席者 委員 【小櫃地区選出】
市原副委員長、水田委員、丸山委員、三橋委員
【上総地区選出】
石井委員長、野村委員、小泉委員、鈴木委員
事務局【上総公民館】
本橋館長、潤米松丘分館長、鈴木亀山分館長、森本副館長、
早田副主査、今井公民館主事、岡本主事
【小櫃公民館】
田村館長、榎本副館長、會澤副主査、佐々木主任主事
- 5 欠席者 なし
- 6 傍聴人 なし
- 7 会議概要 下記のとおり

- 1.開会（進行 森本副館長）
- 2.上総公民館長あいさつ（本橋館長）
- 3.議事

【石井委員長】

進行を務めさせていただきます。よろしく申し上げます。
質疑は両館の説明後にまとめて行いますのでよろしく申し上げます。

【森本副館長】

資料1－1のとおり説明。

【榎本副館長】

資料1－2のとおり説明。

【森本副館長】

資料の1－3のとおり説明。

【石井委員長】

ただいま事務局の説明が終わりましたので質疑に移ります。
本年度の公民館運営審議会の進め方および各地区の人口や少子高齢化の現状について説明がありました。これらを踏まえて本年度の審議会を進めるにあたって、ご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

【三橋委員】

ご説明いただいた人口動態について、数値的なことは説明されたので分かりますが、公民館を含め地域の色々なことを考えると、人口の移動の現状や原因は公民館ではなくとも市として分析しているのでしょうか。人がどこからどこへ移動しているのか動きや傾向が見えていないと、地域に住む人たちがどう考えて、どういう生活を過ごしているのかが分かりません。それを踏まえて公民館がどのような役割を果たしていくのか考えることが必要なのではないのでしょうか。数値だけではそこが見いだせません。そのあたりは市としてどこまで把握しているのでしょうか。

【森本副館長】

貴重なご意見ありがとうございます。上総地区、小櫃地区に限ったことではなく、君津市全体や全国的にも少子高齢化が進んでいます。君津市でも今年度新たに総合計画を策定しており、これから君津市として上総地区、小櫃地区だけではなく、魅力あるまちづくりを考えていかなければいけません。先ほど申し上げたとおり、自然の豊かさ以外にも良いところがたくさんありますので、周知しながら、現状でなかなか難しいところもあるかと思いますが、定住して

いただけるように、様々な施策を考えていければと思います。

【三橋委員】

そのような傾向を見ていかないといけないと思います。近隣市の良い例として市原市の加茂地区があります。小中学校を一貫校の加茂学園として統合しました。統合して学力が上がって、子どもたちが遠方の高校に行くようになったことで、鉄道運賃が高いなどの理由から家族で市外へ転居するようになりました。そのため人が減りましたが、市原市では「いちほらアート×ミックス」を行うことによって田舎の良さを感じる人が移住してきたり、移住しなくても関わっていく人の動きが起きています。市原市の状況と小櫃・上総地区は似ているところがあるので、そのようなところに着目して地域に住んでいる人たちにどのように公民館などの社会教育活動していくのかを考えていく必要があります。

【森本副館長】

貴重なご意見ありがとうございます。これからも色々ご指導よろしく申し上げます。

【田村館長】

小櫃地区については公民館の再整備を検討中です。また、診療所、商店やスーパー、中学校等がまとまって立地しています。市としても施設を複合化しながら拠点となるように考えています。そのような動きの中で周南、小糸の両公民館をどのような施設にするか再整備計画が数年でできます。先行して再整備するのが清和公民館です。旧秋元小学校の校舎に公民館、保育園、行政センターのほか様々な機能を計画しています。今年は先ほど森本副館長が話した総合計画の5か年計画の1年目にあたります。総合計画の初年度として、再整備計画や耐震工事を行い、小櫃公民館、上総公民館も市の流れの中で動いています。少しでも地域の課題解決や人の流れをどう作っていくか、人の交流の場をどのように設定していくのか考えながら、事業と市の流れ、地域の課題と願いを結び付けられるようにし、公民館運営審議会の中でも皆さんにこの事業はこういう結び付きの目的で設定しているということを分かりやすく示していきたいと思います。抽象的で申し訳ありませんが、総合計画を基に動いているのが今の市の流れです。

【石井委員長】

他にご意見ありますか。

私は松丘小学校の校長を2年務めていましたが、その頃、空港会社の子会社が空港の荷物を運ぶカートの研修所として活用したいと、旧あけぼの保育園を視察に来ていました。その際に空港が遠くないのか尋ねたところ、高速道路を活用し、下りでもあるので1時間くらいで着くそうです。東京や羽田からも近いのでPRしてほしいという話もしました。松丘にもまだいっぱい土地があるのではないかと聞いたところ、保育園くらいの広すぎない土地をセメントで固め

て、カー트를運転できれば良いとのことでした。今まで新入社員は実地訓練ができずにシミュレーターでやっていたのですが、いきなり本番だと危ないので実地訓練をやりたい。また、空港で狭い中を通り抜けるので、そのような訓練をしたいそうです。近くに泊まれる宿泊施設もつくるという話がありました。会社が増えると、「あんな良いところがあるのか」と思ってもらえ、PRにつながると感じました。その後実際に研修施設として使われています。

私が校長なのでお世辞を言ったのかもしれませんが、東京から来る人からすると近いというイメージだそうです。金田までは知っていても少し走れば小櫃にも高速道路ですぐ来られることを知らない人もいますので、PRしても良いかもしれませんね。

では、他にご意見がないようなので、議題（２）令和４年度公民館事業計画及び修繕・備品計画について、事務局の説明をお願いします。なお、質疑は両館の説明後にまとめて行いますので、ご了承ください。

【榎本副館長】

資料２－１、２－４のとおり説明。

【森本副館長】

資料２－２、２－３、２－４のとおり説明。

【石井委員長】

事務局の説明が終わりましたのでこれから質疑を行います。活発な議論をお願いします。

【小泉委員】

上総公民館の資料の中で、令和３年度の成果と課題として学校統合後の子どもたちの居場所づくりについて、どのように考えているのでしょうか。小櫃地区は資料の子どもひろばの箇所子ども居場所づくりを行っていることが分かりますが、上総地区では居場所づくりという文言がなく、イベントのような事業なのか、どこかの場所で提供するような形で考えているのでしょうか。広域なのですごく難しいと思いますが、どのようにイメージしているのか教えてください。

【森本副館長】

学校統合に関しては、実際統合されており、子どもがスクールバス等で１つの小中学校に通っている状況があります。どこかの場所での提供は難しい現状がありますので、上総公民館として事業イベント等で様々な企画を考え、子どもたちに喜んでもらえるようにしたいと思います。

【小泉委員】

色々な企画をお願いします。

【水田委員】

両公民館に1点だけ確認があります。小櫃公民館では子どもキャンプの代替事業は宿泊せず日帰りと書いてありますが、上総公民館は8月6日、7日は宿泊予定ということでしょうか。また、宿泊での実施について温度差があるのか、日帰りで行うのか説明していただきたいと思います。

【今井公民館主事】

上総公民館につきましては子どもキャンプを実施する場合の日程と会場について記載していますが、明日、上総地区青少年相談員の会議がありますので、改めて現状の使用条件や他館の状況、コロナの状況を踏まえて実施するかどうかを決める予定になっております。ただ、少し青少年相談員の方とお話した雰囲気と言いますと、宿泊は難しいのではないかという意見がありました。

【佐々木主任主事】

今年度もコロナが落ち着けばキャンプを実施したいということで新しい青少年相談員の会長と話をしました。最近の感染状況を鑑みると、まだ宿泊は子どもたちと距離をとって行うのは難しいということで、4月初めに青少年相談員と会議を行った結果、中止としました。小学校も今年度からプールの事業も再開したので、海水浴、カレー作り等を行う日帰りの事業を考えているところです。

【水田委員】

ありがとうございました。上総地区、小櫃地区でコロナを理由とした行事の中止が多くなっています。私の住んでいる末吉地区でも花まつりも2年中止になりました。今年は何とか形に残そうと1日2回花火を打ち上げたりしたところ、音だけでしたが、近所の方々にお祭りをPR出来ました。何かコロナ禍でもできないかということで、神輿を担ぐのではなく、飾ることをしました。非常に好評でお賽銭も集まりました。

コロナの感染状況のことは、7～8月頃の様子を見ながら、宿泊を考えてはいかがでしょうか。テントは密室になっているからいけないということですが、子どもたちに抗原検査を行うことや体調管理を行えばできるのではないのでしょうか。コロナなので間隔を取ってマスク着用して行っていますが、皆さん勘違いしていると思います。ウイルスを持った人がいなければ感染しません。世の中も変わって、2時間制限で4人までだった飲食も緩和されるようになりました。日本全国の大きなイベントも活発になってきているので、前向きに考えてほしいです。やらないのではなくて、どのようにしたらできるのかを各公民館で当事者を含めてうまくやる方向に考えを持っていただければと思いますので、両館よろしく申し上げます。

【石井委員長】

ありがとうございます。他にご意見のある方いらっしゃいますか。

【市原委員】

小櫃公民館の行事について、資料に子ども会等関係者会議の代表者は保育園、小中学校、子ども会、青少年相談員ほかと記載がありますが、小中学校はPTA役員のことでしょうか。子どもが少なくなっており、地域によっては子ども会がほとんど活動していないところも多いですが、小櫃地区全地域が対象なのでしょうか。

【佐々木主任主事】

地区としては小櫃地区の17自治会となっており、地域としては小櫃のみです。そのうち小櫃台は子どもがおらず、子ども会自体がないということで実質16自治会の子ども会のPTAと子ども会の代表の方に集まっていただき、各地区のイベントの時期を調整や確認をして、小櫃公民館の夏休みの事業を計画しています。他には職員から生涯学習バスの案内や子どもたちの教育に対して役に立つ情報の案内をしています。

【市原委員】

PTA役員は中学校の場合はどうなのですか。小櫃の方のみに来てもらうのでしょうか。

【佐々木主任主事】

はい。

【田村館長】

この子ども会等会議は毎年行っていますが、それぞれの地域でもってしまふと子ども会の活動も広がらないことや、他地区ではどのようなことをやっているのか。色々なスポーツ団体もありますので、各団体の情報交換をしながらさらに活動を広げることや、自治会であれば自分の地区の子ども会がこのようなことを夏休みに計画していると知ることができる場です。色々な広がり的情報を交換する場は他になく、5月末に行っているこの場が唯一の機会として、参考になり、ためになっていると考えます。生涯学習バスの借用手続きや映画の貸し出しの上映の情報もあり、貴重な場になっていると思います。

【市原委員】

毎年実施しているのは承知していますが、せっかく上総小櫃中学校になって小櫃地区の16自治会の役員だけではなく、保護者でも上総の方がいらっしゃると思うので、双方の地区の役員もお呼びしたほうが、上総地区はどのようなことをしているのか等意見を聞くと、地域のつながりも違ってくるのではないのでしょうか。

【田村館長】

上総小櫃中学校として1つの学校になっていますが、あくまでも今の段階では子ども会等会議でそのような意見が出ていません。青少年健全育成はもう1

つ小櫃の元気な子どもを育てる会があります。子ども会等会議は小櫃にある各団体が情報交換をして、今後の活動の参考にしていく場です。そのような話の場なので統括している会議というわけではありません。小櫃の地域関係団体の代表が集まって情報交換しているというように捉えていただければと思います。そのため、上総小櫃中学校でも小櫃の地域の代表者として出席したり、小櫃の各団体が集まっているのが現状です。その場で意見が出れば、それはまた先の検討の話になります。

【水田委員】

上総地区にもそのような場があるのでしょうか。

【今井公民館主事】

上総地区にはそのような地域の子どもに関わる団体の打ち合わせはありません。小櫃では実施しているという話は伺っていたので、昨年度、上総でもそういったことをできないか職員間で話し合っていたのですが、昨年度の公民館運営審議会でもお話ししたように、上総地区では、学校統合後の青少年健全育成協議会のあり方も整理中であり、久留里地区では、青少年健全育成協議会が活動を一時凍結している状況です。各地区の青少年健全育成協議会の活動が今後どのようになっていくかを関係者に聞いたりして、どのように地域団体が連絡調整していけるのか、活動を活発にできるのかを考えていく必要があると思います。

【三橋委員】

子どもに関する事業を計画し実施するにあたり、実態が変わってきていると思います。特に少子高齢化が進み、この地区の場合は学校が統合され、学校のある地区と無い地区の子どもたちの生活様式や家庭での過ごし方などの生活にも違いがあるのではないのでしょうか。今までやった事業の踏襲や、子どもたちをどのように見ていくかという考え方を、同じように継続するのではなく、変化させていかなければいけないし、小櫃地区と上総地区では違う取り組みが必要だと思います。例として、小櫃地区、久留里地区の人を亀山地区に呼んで子どもたちと関わる等の変化させていくようなことをしないと格差がでてしまうのではないかと思います。

特に小櫃地区の子どもたちは、木更津市や袖ヶ浦市に行くほうが近いので、習い事や何をするにしてもそっちに行ってしまうています。友達がそちらの方にいる子が多いです。そのようなことを久留里や亀山で見ていく必要があります。私はたまたま小櫃で学童クラブをやっている、上総の子どもも来ていますが、子どもたちの友達関係や生活環境の違いが見えるので、この事業もそのようなことを踏まえて格差を無くしていくように考えていかなければならないと思います。

【小泉委員】

事業を公民館やコミュニティセンターでやっていますが、統合後の空き校舎

で実施できないでしょうか。

【石井委員長】

学校は教育委員会が所管しますが、統合後の空き校舎は管財課が所管しており、利活用のために会社等が見学に来ている状況です。旧坂畑小学校、旧亀山中学校はキャンプ場などとして利活用されており、旧松丘小学校と旧松丘中学校はまだ決まっていません。担当課も教育総務課から移っています。私は松丘小学校、松丘中学校、亀山中学校にも勤めていたことがあり、懐かしくて行ってみたいと思うのですが、鍵を返却してしまったので借りるのも簡単ではないことが現状です。唯一まだ教育総務課が管轄しているのは旧久留里中学校とグラウンドです。上総小学校のすぐ隣にあり、行事があつて駐車場がない時などにグラウンドの借用は可能です。現場にいる身として、教育総務課が管轄していないと事業の会場等としての借用の折衝は難しいと思っています。

【三橋委員】

今まで学校として使っていた建物が新しいものとして活用されていくことについて、まだ詳細は分かりませんが、これから見えてきたときに、子どもと関係して何かできないでしょうか。規定上難しいのかもしれませんが、学校が利用され動き始めたときに接点が見つけられるかもしれません。学校が無くなってしまったけれど、学校とは別の形で使われていて、そこに新しい機能ができれば、先ほど話したような接点があるかもしれません。亀山地区では施設の動きがあれば、その動きをみて考える必要があります。

キャンプは公民館事業ではないと経験できませんでしたが、今はいろいろな場所にキャンプ場ができています。そこに住んでいない人たちが小櫃地区、上総地区に来てキャンプをやっているのであれば、何か子どもたちに体験させることもできると思います。外を見ながら公民館事業の中でも新しいことを取り入れ、どうやって子どもたちと関わっていくのかについて変化する視点を入れていく必要があると思います。

【石井委員長】

貴重なご意見ということで伺わせていただきました。

【丸山委員】

公民館サークルが解散や休会をしてしまうことについて、会員の高齢化やリーダーの負担、コロナで集まれずに休んでいるうちに億劫になったことが原因ではないかと感じました。

「おびつスマイルサロンいーね」について、公民館と小櫃地区社会福祉協議会、東部地域包括支援センター、赤十字奉仕団、シニアクラブ、民生委員等の17～18名で運営委員会を立ち上げて準備しているところです。ICTを進めていこうという風潮と正反対に会って話してみんなでも対面して進めていくことが公民館の魅力ではないかとずっと感じています。もちろん、ICTも必要です。ママたちがZOOMでその時間に参加するのはなかなか難しいので、動

画は好きな時間に見れたり、見返せて良いのではないかと思います。しかし、「おびつスマイルサロンいーね」では、実際に集まって高齢者に対して地域の中には困ったときには公民館、包括支援センターがあったり、民生委員もいるのでPRできます。PRする方法はやはり口コミが一番ではないかと思うので、「聞いてきたよ」、「良かったよ」、「また一緒に行ってみよう」というような集いの場が広がるようにしたいです。理想はとても高いのですが、やってみないと分からないというところからのスタートで、来月の第3金曜日に第1回を実施する方向になりました。コロナが拡大しないように祈りつつ、大成功させたいと思います。公民館には事務局的な役割を担っていただき、私たち一般市民が苦手な会議資料作成や、情報提供をしてもらっています。小櫃地区社会福祉協議会と公民館のおかげで進められる事業です。課題解決学習推進事業だったとは今日初めて知りました。またお世話になります。

【石井委員長】

それでは、議題（3）ICTを利活用した公民館事業の新しいあり方について事務局の説明を求めます。

【森本副館長】

資料3-1、3-2のとおり説明。

【會澤副主査】

資料3-3のとおり説明。

【森本副館長】

資料3-4のとおり説明。

【石井委員長】

両館から、本年度のICTを利活用したモデル事業の実施計画および評価票について説明がありました。実施計画に対するご意見やご感想のほか、モデル事業に期待すること等をご発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。

【鈴木委員】

ICTに力を入れていくことはとても大切だと思います。コロナに限らず、これからの社会でコミュニケーションツールとして、リテラシーを身につける必要があると思います。私はそのような力はないので、参加する必要があるんだろうなとは思いますが、上総公民館はサークル役員が対象者ということで、もちろんこれでも良いのですが、私は参加できないのかなとも思ったりします。

小櫃公民館の「小櫃まるごと博物館」事業は面白そうなので、小櫃地区の素晴らしさをみんなで共有できて、誇りに思える事業の基盤になるのではないかと思います。そこで、ICTを両館ともに力を入れていきたいということですので、頑張ってくださいと思います。一つよく理解できない言葉があり、小櫃公民館事業の趣旨に記載のある「オンラインとオフラインを有機的に結び

付ける」とは具体的にどういう意味でしょうか。

【會澤副主査】

横文字で恐縮ですが、オンラインはネット上のつながりを想定しており、オフラインは対面など直接触れあったり、あるいは現場をオンライン上でつなげたりしていくという意味として使わせていただきました。分かりづらいようであれば、対面あるいは現場という意味で読んでいただきたいと思います。

【水田委員】

小櫃公民館でQRコードを使用したり、いろいろなことをしています。私も前から動画を撮っていて、長谷川や末吉地区など各地区によって行事を行っています。自分の地区の行事を映像で残してくれと以前から言われています。撮影する機材も必要になりますし、撮った映像をどうやってインターネットにアップして、横文字の苦手な人たちに伝えようかと考えています。小中学生がいる家庭はタブレット等があると思いますが、Wi-Fiがない家もあると思うので、YouTubeで配信するのか、市のホームページで発信するのかが今後の課題になるかと思っています。大変だとは思いますが動画の記録はいろいろなものを撮っていただき、この地区のことをもっと伝えるために市のホームページに掲載やリンクを張っていただけたらいいなと思いますので、ぜひよろしくお願ひします。

【會澤副主査】

イメージとして基本的に君津市公式YouTubeチャンネルのアカウントに動画を掲載する予定です。そのチャンネルの中に公民館事業という一つの枠組みがあるので、そこを見るだけでも一覧で閲覧できます。また、市のホームページにYouTubeの動画を入れ込むことができるので、どちらからでもいけるようにしたいと思います。QRコードについてはYouTubeから直接見るようにするか、市のホームページを経由した方が良いのではとは自分で考えていますが、検討しています。いずれにしても、君津市公式YouTubeチャンネルの中で動画を配信していくように考えています。

【石井委員長】

本年度もコロナ禍の影響で公民館活動には困難が伴うことが予想されますが、様々な工夫を凝らして、少しでも事業が充実すること、そして地域が活性化することを願っております。

また、我々公運審委員も、公民館事業の実施に当たって協力していきたいと思ひますので、引き続きよろしくお願ひします。

以上をもちまして、議長の任を解かせていただきます。

ご協力ありがとうございました。